



from BASEL

国際金融システムの安定とFSB



FSB 事務局が置かれている国際決済銀行 (BIS) の建物

FSB (Financial Stability Board、金融安定理事会) という名前を聞いたことがありますか。アジア危機を受けて、1999年にG7財務大臣・中央銀行総裁の肝いりでFSF (Financial Stability Forum) が設立されました。2008年9月のリーマンショックの後、国際的な金融システムの安定を図り、各国当局や国際機関等との協力関係を一段と深めるため、FSFを拡充する形で2009年4月にFSBが設立されました。

現在、G20各国や主要金融市場を有する国の当局および12の国際機関や国際基準設定主体等がFSBのメンバーとなっており、日本からは金融庁、財務省および日本銀行が参加しています。議長はカナダ中央銀行のカーニー総裁が務めており、その事務局はスイスのバーゼルにある国際決済銀行 (BIS < Bank for International Settlements >) 内に置かれています。

FSBにおける最近の取り組みの一つとして、金融

システム上重要な金融機関への対応が挙げられます。リーマンショックの教訓は、巨大金融機関を円滑に破綻させることの困難さでした。そうした教訓にかんがみ、FSBでは、G20首脳からの要請に基づき、巨大金融機関が破綻する確率を下げ、また、破綻が避けられない時は円滑に破綻させられるようにするための政策をバーゼル銀行監督委員会の協力を得ながら検討してきました。昨年11月のG20カンヌサミットで承認・公表された一連の政策では、グローバルな金融システム上重要な銀行に対し追加的な自己資本の保有や再建・破綻処理計画の作成を義務付けるとともに、各国当局に対し円滑な破綻処理を行うための法整備を求めることになりました。

国際金融システムの安定に向けては、さまざまな国・業態の規制監督当局や国際機関、国際基準設定主体が力を合わせていくことが必要です。その意味で、FSBの役割は今後とも重要性を増していくものと思われます。 (FSB事務局、バーゼル)



G20 カンヌサミット (写真提供: 首相官邸 HP 内閣広報室)